

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します!



清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課
地域コミュニティ室
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1 (県庁6階)
電話 058-272-8199

第2号
平成26年10月発行

③ わきのしま 脇之島地域福祉協議会

所在地：第34区ホワイトタウン自治会事務所
(〒507-0826 多治見市脇之島町6-30-1)
代表者：鎌田 昭夫 会員数：約2,540世帯 (6,900人)

地区の概要

多治見駅からバスで10分程度の小高い丘陵地。名古屋への通勤に便利な町として、昭和56年に分譲が始められた新興住宅団地。平成32年に高齢化率40%になると予想される(現在21.3%)。今後の少子高齢化・地方財政悪化による行政サービスの縮小を見越し、住民同士が支えあう仕組みづくりが必要との思いから「地域福祉協議会(ふれあいセンターわきのしま)」を立ち上げて、10年目を迎えた。

主な特色

● 将来を見越して活動を開始

近い将来、住民の高齢化・若年層の流出・出生率の低下・生産年齢人口の減少等により、地域生活や活力ある地域活動の維持が困難になるであろうことを見越して、平成14年、自治会から、地域住民同士の支え合い活動が必要であるとの考えが出た。その後、準備組織を経て、平成16年に「地域福祉協議会(ふれあいセンターわきのしま)」という地域住民主体の活動団体を立ち上げた。

● アンケートを実施してニーズ把握

とにかくまず始めてみてやりながら改善していく姿勢で多様な活動を展開

地域住民の思いをアンケート等で受け止め、住民にとって必要な様々な事業を展開し、住宅団地の活性化に取り組んでいる。身近な課題から取り組み、住民相互が支え合う仕組みを模索。「どんな活動も、最初から満点の結果は出せない。とにかくまず動き出し、活動するうちにいろいろな課題が見つかるので改善を重ねていく。」と鎌田会長は話す。家事支援事業、予防医療講座、各種相談対応、機関誌の発行(月1回)、ふれあいサロン事業、生活環境整備事業など、様々な支え合いの活動に取り組んでいる。

● 高齢者移送支援サービスを展開 他の先進地域を視察に行き研究を重ねる

買い物や通院等に不便を感じている高齢者の方に対して、定期的に運行する「おでかけシャトル便」(社協から貸与された共用ワゴン車)と、要望に応じて随時運行する「アッシーホワイト君」(登録された住民ボランティアの家用車)によりきめ細やかに移送要望に対応。導入に当たっては、可児市の桜ヶ丘団地や若葉台団地を含め先進地域を視察するなど研究を重ねた。



高齢者支援事業「ふれあいサロンお花見会」



移送支援事業のシャトル便とボランティアさんたち

ポイント 住民主体の地域福祉協議会による 身近な地域ニーズへの対応

住民が自主的に将来の地域課題を見越して、支え合い活動の必要性を認識して事業を開始。地域住民へのアンケートにより、ニーズや改善点を把握。先進事例の視察や、関係機関との協議など、必要な情報を集めて多様な活動を展開。

今後の展望

団塊の世代の人材を掘り起こし、地域の支え合い活動に参加してもらい、現役時代に培った様々な技能や知識を活かしてほしい。住民に支え合い活動の必要性を認識してもらい、参加意欲を喚起していきたい。また、若いボランティアの育成と各種事業に参加するボランティア間の交流を行い、地域住民のつながりをさらに強めていきたい。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

7月22日、大垣市中川連合自治会の皆様 「自治会向け地域コミュニティ研修会」に参加 されました

当センターの職員が講師となって、自治会の皆様に向けた研修会を開催し、活発な意見交換を行うことが出来ました。研修会の様子は、センターホームページからご覧になれます。研修開催を希望される場合は、当センターまでお気軽にお問い合わせください。



研修風景

《訂正のお詫び》

ぎふ地域の絆づくり支援センターだより第1号で、「瑞穂市本田団地自治会連合会」の記事に一部誤りがありました。正しくは以下のとおりです。お詫びして訂正します。

- (1) 団体名の右欄
(正) 所在地：本田団地
(誤) 所在地：本田コミュニティセンター
(〒501-0236 瑞穂市本田977-1)
(正) 取材先：太田定敏
(誤) 代表者：太田定敏
- (2) ポイント欄
(正) 副会長
(誤) 会長